

小学生の部 入選

飛驒市立古川小学校 五年 向林巧貴

ぼくはこの夏、一つの目標を達成することができました。その目標とは、「平泳ぎで二十五メートル泳ぐ検定に合格すること」です。

「できた！泳げた！」

二十五メートル泳いでプールのかべにタッチしても最初はそう思うだけで、声になりませんでした。水を飲まないように、沈んでしまわないように、泳ぎきる間の苦しさど、「合格しなくては。」というプレッシャーのようなものから、二十五メートル泳ぎきって、かべにタッチした瞬間、ふっと楽になった気がしました。

ぼくは小さいころから、お風呂もいやなほど、水が大っきらいでした。なぜかというと、水が目に入ったり、おぼれるかもしれないとこわいと思っていたからです。

小学校になって夏になると水泳の授業が始まりました。ぼくはやっぱり水がきらいでうまく泳ぐことができませんでした。二年生になると白ぼうしになっている友だちがたくさんいました。二十五メートル泳げれば白ぼうしです。でもぼくはまだ赤ぼうしでした。三年生の夏休み、「白ぼうしになる。」ことを目標に、毎日プールへ通って泳ぐ練習をくり返しました。

週末は、よそのプールへ出かけてお母さんが泳ぎ方を教えてくれました。今回の平泳ぎは泳ぐのが得意な四年生の友達に教わりました。せっかくの夏休みプールの時間なのにたくさんの時間、ぼくの練習に付き合ってくれました。平泳ぎで五十メートル泳げる下級生を見て、その前で検定を受けるのがはかしくなりました。でもお母さんは「あなたはあんなに水ぎらいやったのにこんなに泳げるようになっただけでもすごいと思うよ。」と言ってくれました。検定の際は友達や先生のたくさん応援の音が、水の音の向こうでずっと聞こえていて心強かったです。

目標を達成するためにがんばった毎日と、たくさんの人に応援してもらって合格できた検定のその時がぼくの夏休みの思い出です。